

「動物のいのち救済基金」 Live Together

すべての生命（いのち）に尊厳を（シュバイツァー博士）

（公益社団法人東京都獣医師会）

「動物のいのち救済基金」とは・・・

(長期的指標)

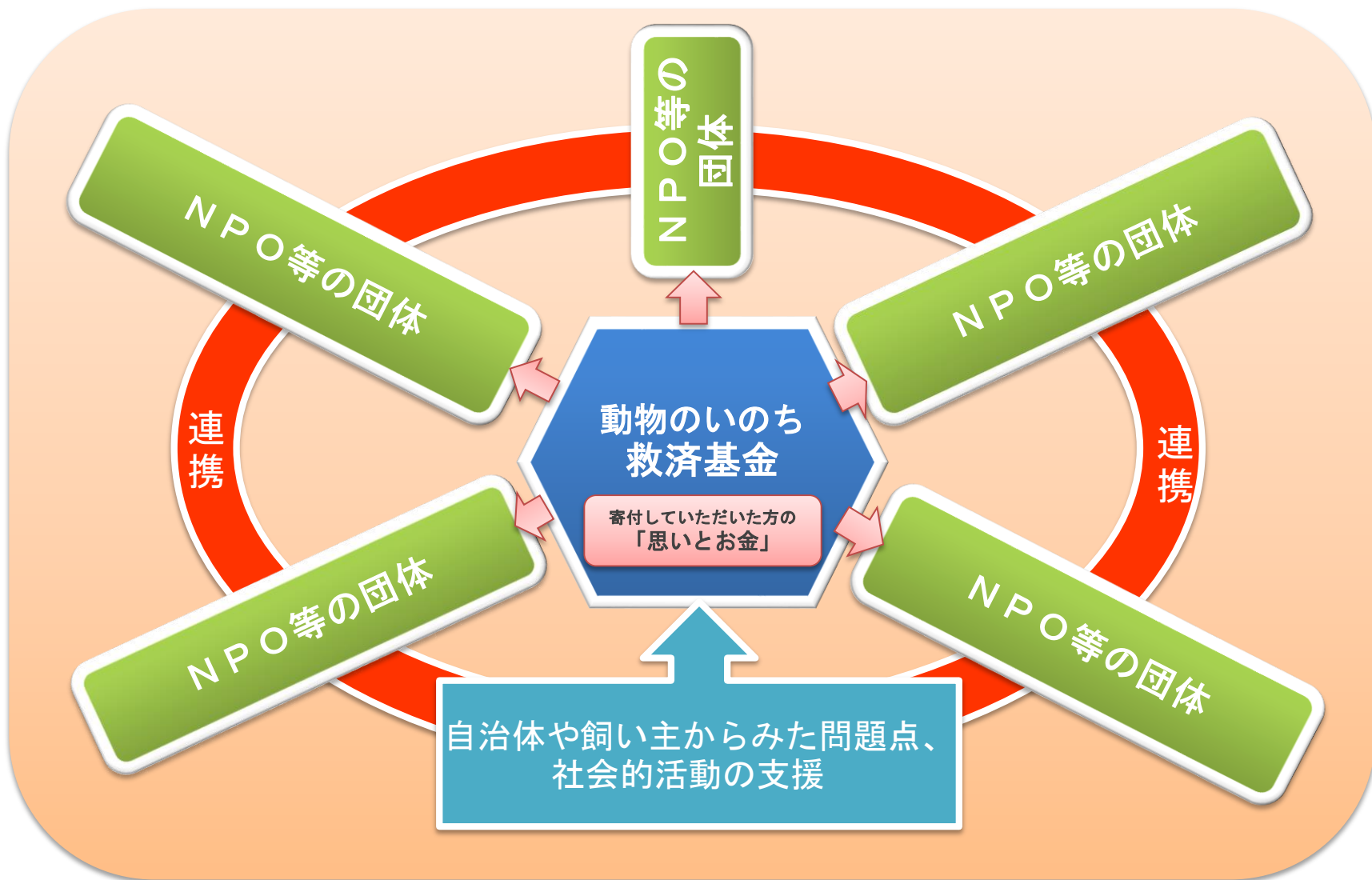
- ⇒人と動物のより良い共生社会の構築を目指す。
- ⇒すべての生命（いのち）を守る。

まずは、4つの活動を柱にした取り組みから… (短期・中期的な指標)

- ① 自治体による殺処分頭数を限りなく「ゼロ」に。
地域猫および飼い猫の不妊去勢手術の費用助成、マイクロチップの挿入など。
- ② 災害時の動物救護活動、救護体制の構築。
災害時における動物救護活動とその支援、動物医療チームの派遣、災害時同行避難の推進、災害用医療機材の備蓄、マイクロチップの配布および挿入事業など。
- ③ 高齢者の動物飼育に対する支援事業。
飼い主の死亡などによる飼育動物の引き取り、高齢者が飼育する動物の獣医療サポートなど。
- ④ その他の動物福祉活動
やむを得ず飼えなくなった動物の飼育相談・引き取り・里親探しなど。
野生鳥獣の保護・救護・人と動物の共通感染症の予防および調査。

イメージ

- 動物との共生社会を実現するための総合窓口・管理 / NPOや他の公益法人などとの連携により実現



●動物のいのち救済基金は

動物のいのち 救済基金

基金は動物たちとの
共生社会の実現のため
に、保護施設の運用・
補助制度などに活用



補助制度などにより
・高齡化社会の活性化
・動物のいのちを守り
人と動物が幸せに暮ら
せる社会を実現

今後の活動内容（予定）

(1) 高齡者に対する飼育支援（補助制度）

フードの援助、獣医療サポート、里親希望者への譲渡協力(※)など。

※飼い主の年齢と犬猫の年齢をマッチングさせて、柔軟な譲渡を行う。

動物を飼育する高齡者が増加することで・・・

⇒高齡化社会の活性化

（健康寿命への影響、地域社会との接点創出）

⇒動物の健診やワクチンなどの補助制度を活用することで、
動物病院に積極的に通う。

（早期発見、早期治療で「動物のいのち」を守る。）

(2) 殺処分「ゼロ」に向けて

地域猫および飼い猫の不妊去勢手術の費用助成・補助など。

（積極的な病気の予防や望まれない仔の抑制）

(3) 災害時の救護体制の構築

一時預かりなど、受入れ施設等の準備。

・施設の運営はNPOなどの各協力団体へ委託。

（補助制度で対応）

・健診、治療などについては全面的な協力。

